

創立八十周年記念

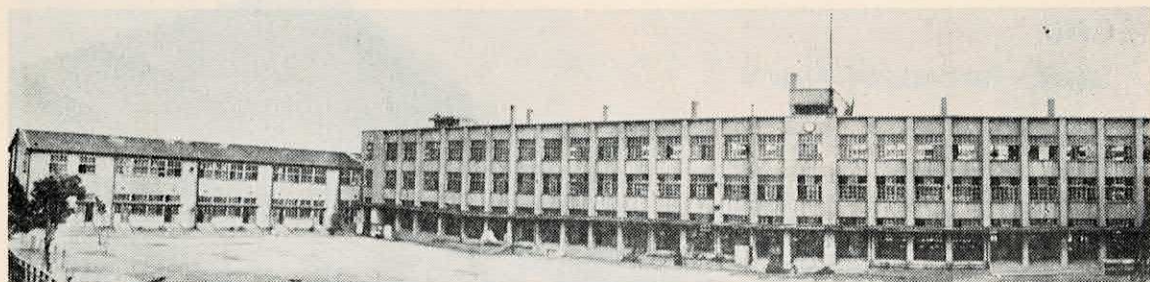
記 念 誌

大阪市立泉尾東小学校

泉尾東八十年誌

と び ら

- 一、校舎寫眞（一部）……………一頁
- 一、八十周年を迎えて………学校長 北田信治………四頁
- 一、光輝ある歴史を祝して事業委員長中北悟五頁
- 一、本校沿革の概要……………六頁
- 一、最近十年の足跡……………教頭 河本一夫………八頁
- 一、現 況……………十頁
- 一、記念事業詳報……………十二頁
- 一、追 憶……………十四頁
- 一、八十周年記念祝歌……………十六頁



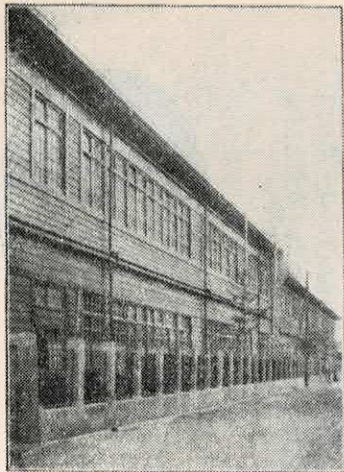
八十年の偉績を誇る

本校の英姿

(写真)

昭和六年当時の泉尾東小学校校舎





(写真) 昭和二年当時の泉尾東小学校校舎
(雨天体操場より望む)





八十周年を迎えて

学校長 北 田 信 治

春花の咲ききそう今日茲に本校創立八十周年記念を迎えました事は誠に御同慶の至りに堪えません。

明治八年四月四日に本校が創立せられまして以来幾多の変遷または時代の推移にあい種々の苦難の道をのり越えて今日に及んだわけであります。その間卒業生を社会に送り出した数が八千百七十九人の多きにのぼっています。これらの卒業生はそれぞれ社会的に活躍され、今日社会的に重要な人物も多く輩出しているわけであります。それにつけても今日まで本校の教育を守り続けられた旧職員の御労苦に対しましては、深甚なる敬意と感謝のまことを捧げるものであります。

今回八十周年の記念祝典を挙行するに当りましては、部内各位の方々が衷心よりおよろこびを頂くと共に、大阪市立泉尾東小学校創立八十周年記念事業委員会を組織していただき、新教育の動向にふさわしい児童図書館の充実や記念植樹その他体育施設の充実及び記念誌の発行等数々の御懇情を得まして、今後の泉尾東教育にお力添えをいただきましたことは誠に有難いことと謹んで厚く御礼を申し述べます。我々職員も今日のこの意義深い時機に本校の職員たり得たことを自覚しこれを期期としてますます精励を重ね今日の御盛典に報じ度いと存じます。

私が常に感謝して居ります事は、代々のPTA会長、副会長、役員委員の方々をはじめPTA会員及び校下諸団体の方々がほんとうに学校教育の事を考えて、積極的に学校のために御協力を賜わることにあります。

泉尾東校が日々その声価を高めている陰には、斯うした崇高な御人格者の御支援ということを決して見逃してはならないということで、胸裡にいつも拝謝の念に満ちている次第であります。謹んで厚く御礼申し上げますと共に今後の御熱援を希う次第であります。八十周年を迎えるに当りまして所信の一端を述べ関係者各位へお礼を述べまして挨拶にかえる次第であります。



光輝ある歴史を祝して

記念事業委員長 中 北 悟

茲に泉尾東小学校創立八十周年記念式典の挙行に当り合わせて意義深き記念誌を刊行し輝かしき八十年の歴史を遍纂されるに際し実に憾慨無量のものが御座います。

大阪市と致しましては元より全国的にも稀れなる明治八年四月四日の創立になる永き光輝ある歴史を有する本校は吾が大正区の名門校として、過去の烈しかりし戦火の中にも亦幾度の風水害にも巖然として堪え抜きて文教本来の使命を全うし、茲に創立以来一万人に垂々とする有為の人材を社会に送り尚ほ年と共に増加する児童を抱擁し現在千八百五十名を算える隆盛振りを発輝致して居ります。

永年に亘る学校内外当事者の献身的なる御努力により其環境は諸々の設備と共に着々と充実し、かてゝ加うるに学徳遍ねく識見豊かなる歴代の校長を頭に戴き優秀聰明なる職員を選び迎え誠に本校に学ぶ児童の幸福是に過ぐるはなく恐らく他に類を見ざるものと存ずる次第であります。

尚ほ且つ最も慶賀に堪えなき事は十指に余る校下諸団体の一条乱れぬ円満なる連系統一であります。斯くの如き実に偉大なる一大和合の下に凡ての行事が円滑に運行されて行きつつあります現実には鑑み常に満腔の感謝と敬意を捧げ居るもので御座います。

過去の八十年は世紀の歴史でありますが尚ほ将来無限の繁栄を希い幾万幾十万の人々を国家社会を利用する為め薫育して頂き度く。より良き施設の充実を計かりより以上の教育の殿堂たらしむ可く益々発展されん事を祈りまして此記念すべき式典の御祝詞と致します。

昭和三十年四月四日

本校沿革の概要

明治八年 明治八年四月四日本校創立す。

第三大区大阪府管内第三中学区第二区第四番小学校と名称す。

當時の校区は泉尾、北恩加島、小林、千歳、岩崎の五新田であつた。

明治十年 第六大区第二小区第四小学区第四番泉尾小学校と改称す。

明治十一年 大阪府西成郡泉尾小学校と改称す。

明治十五年 初等中学教科を置く。

明治十九年 西成郡木津川小学校と改称す。同時に西成郡第三学区千島小学校を廃し木津川小学校分校とす。

西成郡木津川尋常小学校と改称す。

明治二十五年 修業年限四カ年の尋常小学校を置く。

明治二十六年 大阪市立木津川尋常小学校と改称す。

明治三十一年 九月泉尾スの割六百四十八番地の新築校舎に移転し千島分教場を廢す。

明治三十二年 校地四百三坪、校舎二階建百三十四坪、附属建坪十二坪、工費金九千二百七十一円八十四錢二厘なり。

須長徳五郎氏校長として新任す。

校下の變更があり。岡田を廢し小林を編入し、泉尾町、小林町、北恩加島町、新千歳町、新炭屋町、千島町、平尾町、南恩加島町、今木町、難波島町、中口町、東千島町の十二カ町とす。

四月裁縫専修科を新設す。同二年間の補習科をおく。

四月裁縫専修科を新設す。同二年間の補習科をおく。

明治三十三年

校下の變更があり。岡田を廢し小林を編入し、泉尾町、小林町、北恩加島町、新千歳町、新炭屋町、千島町、平尾町、南恩加島町、今木町、難波島町、中口町、東千島町の十二カ町とす。

四月裁縫専修科を新設す。同二年間の補習科をおく。

四月裁縫専修科を新設す。同二年間の補習科をおく。

明治三十四年

補習科を廢し四年程度の高等小学校を併置す。

明治三十五年

木津川裁縫学校を特設す。

明治三十八年

十一月校舎左右各二十二坪半増築す。

明治四十二年

十二月須長校長転任、若林校長となる。

明治四十四年

九月若林校長転任、宮田校長となる。

明治四十五年

第六学年を新設し、高等科第一第二学年を欠く。

明治四十四年

修業二カ年の高等科を新設す。

明治四十五年

校地北側に二階建校舎一棟を増築す。

大正二年

手工、商業科を併置す。

大正二年

大阪市泉尾第一尋常高等小学校と改称す。

大正七年

大阪市泉尾裁縫学校と改称す。

大正七年

宮田校長転任、今堀校長となる。

十二月雨天体操場三十二坪を増築す。

大正八年

小学校令改正により尋常科に手工、高等科に外国語、図画、女子に家事科を新設し、大阪市実業補習学校と改称す。

十二月校地東側に二階建校舎一棟を増築す。

大正十一年

大阪市立泉尾裁縫女学校と改称す。

大正十三年

泉尾家政女学校を設置す。

十一月南恩加島小学校を新設されて平尾町を分離す。

大正十五年

校舎の南側に二階建一棟を増築す。

昭和三年

高等科女子部を廃す。

大正通、南泉尾町、三軒家三丁目を本校の校区とす。

昭和五年

奉安庫を講堂裏に新設す。

昭和九年

九月二十一日関西地方を襲いたる暴風雨のために被害を蒙り校舎の一部を半壊せり。

運動場約一米半、教室の床上一米の浸水あり。そのため機械器具の損害甚大なり。

十月一日より開校したが、五年生以下は二部教授をした。

昭和十二年

鉄筋コンクリート造三階建の起工式を行う。

昭和十三年

学務委員十数名来校、諸帳簿の調査検閲をなす。

昭和十四年

一月九日新校舎に於て授業を開始す。

十一月二日、新築落成式を挙行す。

昭和十六年

大阪市立泉尾東小学校と改称す。

昭和十七年

三月三十一日、将積校長退職、西川校長任命せらる。

昭和十九年

九月十八日、徳島県那賀郡立江町、平島村、今津村へ第一次集団疎開をなす。

五月五日、第二次疎開として石川県石川郡野々市町、松在町

昭和二十年

出城村、美川町に集団学童疎開をなす。

五月二十八日、第一次集団疎開児を徳島県三好郡佐馬地村字

昭和二十年

白地へ再疎開をなす。

十月十八日、終戦のため疎開児帰校す。

昭和二十年

「生活学習研究会」を開催し好評を博す。

昭和二十五年

生活学習研究発表会を開催す。

昭和二十六年

八月プール建設なる。

昭和二十八年

三月、児童図書館を旧警防会館を改築して完成す。

昭和三十年

四月四日、八十周年記念式典を挙行す。

最近十年の足跡

教頭河 本 一 夫

敗戦の崩しの見え始めた昭和十九年の三月当校に赴任、満十一年今日までお世話になつています。赴任早々校園（今の幼稚園も含めて）防空主任、集団避難、同疎開主任、勤労働員主任と戦争完遂に協力し、戦争犯罪人Z級に指定されそうな役を命ぜられた。運動場を防空壕だらけにしたのも私だった。五月には御真影を奉じ泉南の三ヶ町村に集団避難（一日で帰校したが）六月には学徒報国隊の結成、三ヶ所の軍需工場に出動、当時高等科は女子一年だけで約百名、まだいたいけな、か弱い女兒が一般の工員に伍し、汗と脂に鉢巻の日の丸も黒ずみ、工場側からさすが学徒と感激させた。

一方初等科の児童は集団避難することになり、本校は徳島県那賀郡の割当て、同僚二名と共に設営隊として八月先発、三ヶ町村五ヶ所について受入態勢整備のため二週間に亘り東奔西走、約五〇〇名の受入準備（縁故疎開を奨め疎開先のない四年以上のみ）をし、九月にはいよゝなつかしい父母の膝下を離れた約五〇〇名が連絡船を渡りそれぞれの宿舎に着いた。着いたものも涙、迎えるものも涙、感激的なシーンであつた。受入側は何くれとなく親切に疎開児を第一に、当時不足勝だった食糧は充分にしていた。しかし何しろ小さい子供達の共同生活で、職員は心身共に疲れ果てられた。（このためか遂に二名の先生は若い身空で不帰の客となられた。）子供達も生活には不自由しなかつたが望郷の念に駆られたのだろう。二三人布団の中で脱走の相談をしていたものもあつた。あの汽車の汽笛がたまらなくなつたのだろう。海を渡らなければ帰れないのだが……

翌二〇年三月十四日は卒業式というので六年生は帰阪したが、前夜の空襲警報は実際の空襲となつた。作業服にゲートル姿で寝ていた私は即刻かけつ

けたが、次々に襲来する敵機に対してはなす術なく、屋をあざむく火災、頭上の敵機の轟音、シャーという焼夷弾落下音、たゞ茫然、家を焼かれた罹災者の殺到で我にかえり、くすぶる校舎校庭の消火に努めた。時の警防団長瀬戸彦次氏も自宅の罹災を顧り見ず学校防護に任ぜられた。私の宅も薪炭屋にあつたが、何一つ残さず全焼、翌十四日雨のそば降る中を下駄もなく跣足のまゝ子供達を田舎へ帰した。家族全員田舎へボロを飾つた。校庭屋上に焼夷弾の長さ一米位のもの二〇ヶ位落ちていたと思う。こえて六月一日及び十五日の空襲に依り校下の大半を焼野ヶ原に化した。特に一日の空襲には動員中の高二の女兒、直撃のため防空壕内にて憤死、同十五日の空襲には講堂に焼夷弾落下、天井の燃えているのを西川校長、谷内田先生（現日本橋校長）南波先生（現九条北教頭）らがバケツリレーで消し止められた。（瀬戸警防団長及びこれ等三人の先生方の献身によつて今日の学校あるを思う時、いくら感謝しても足りないと思います。）

敗戦はも早や決定的、動員中の工場も焼かれ生産は零に等しく、交通機関水道が癱痺状態で、切歯扼腕するのみ、かくて八月十五日の終戦の大詔を涙で聞き、学徒隊の解散、疎開児の帰阪となつて十月学校は再開されたが児童数は百名に足りなかつた。

進駐したG H Oの指令は教育の干渉特に酷しく又敗戦後三回に亘る大風水害により貴重な文献を多数失い、而も当時の社会状況に学校も亦一種の虚脱状態に陥らざるを得なかつた。しかして閑居校長を迎えるに及んで、職員一同廃きよの中に立ち上り生活学習を目標とし二回に亘る研究発表をなし広く斯界に向い絶賛をあげた。又村上前校長の時には、講堂の修築、プール建設等の難事業を完成した。

これ等校下各種団体、P T A、一般校下の方々の心のよりどころとして愛校の精神の表れであり、後援の賜ものであり、われ／＼職を奉ずるものの感激に堪えない所で、創立八十周年を迎えるに当り、これ等の方々に深甚の敬意と謝辞を申し上げ、編集子の求められるまゝに過去十ヶ年の思い出を草した次第である。

現況

それでは八十年の永い歲月の間に、八千百七十九名の卒業生（昭和廿九年度二三〇名を含む）を送り出した本校の現況はどうであらうか。

ために校地面積は、

全校校地總面積一九七二坪・校舎建坪……鉄筋校舎二四二坪・木造校舎三八八坪・計六三〇坪・運動場一〇四六坪・プール二六四坪・新図書館三二坪

となつており、校舎の延坪は、鉄筋校舎が三階建て約七二四坪、木造校舎が東・西北・北の三棟に別れ、そのいずれも二階建て、合せて延坪約七六〇坪となつてゐる。その教室数は普通教室三十二、特別教室一（音楽室）、特別教室より普通教室への転用三、でこの特別教室への転用とは年々児童数が増加しその為止むなく昭和二十九年度は工作室を、同じく三十年度には理科教室、旧図書室を普通教室として使用してゐるもので、これで現在、教室の利用度は最大限というところである。このほか便所を除く部屋数は職員室、校長室保健室、校務員室、宿直室、放送室、給食調理準備室、倉庫など合せて九つの部屋があり、別に講堂兼屋内体操場兼音楽練習場なるものが西北側木造校舎一階に二二九坪の広さをもつて設けられてゐる。

次に昭和三十年度の学年別在籍数は左の通りである。

学 年	学級数	男 子 (名)	女 子 (名)	計 (名)
一	七	二二〇	二二五	四四五
二	七	二二二	一八二	四〇四
三	五	一四八	一五六	三〇四
四	四	一〇八	七四	一八二
五	五	一三〇	一一三	二四三
六	六	一三六	一五二	二八八
合 計	三四	九六四	九〇二	一八六六

では最後に現職員・事務員・校務員、及び本年職員異動を御紹介しておこ
う。

担任			担任		
氏名	赴任年月		氏名	赴任年月	
校長 北田 信治	昭29 4 1		二 増田 露	昭26 2 1	
教頭 河本 一夫	昭19 3 31		三 田中 昇	昭28 9 1	
一ノ一 鎌田 垂穂	昭28 4 1		四 古賀 五久男	昭29 4 1	
二 倉橋 信治	昭28 4 1		五 岡本 豊顕	昭28 10 16	
三 永田 弘子	昭19 3 31		六ノ一 後藤 哲也	昭27 11 16	
四 入江 幸次郎	昭29 6 16		二 西垣 綱夫	昭27 11 1	
五 金津 峯子	昭30 4 1		三 堀田 幾子	昭27 7 31	
六 馬場 尙吾	昭23 8 31		四 中尾 善郎	昭27 7 1	
七 池上 方子	昭22 6 30		五 西藤 一枝	昭26 10 3	
二ノ一 吉田 和民	昭27 11 1		六 名倉 健茲	昭29 1 1	
二 七条 美智子	昭27 4 1		清 水 雅子	昭29 6 16	
三 富田 啓介	昭30 4 1		担任職員		
四 奥田 稔	昭30 4 1		山 本 千 秋	昭25 3 31	
五 莊島 浩子	昭30 4 1		佐 野 悦 子	昭25 3 31	
六 福永 稔	昭27 4 1		事 務		
七 岡崎 千恵子	昭25 3 31		中 田 請 一	昭22 4 1	
三ノ一 堅尾 好子	昭25 4 1		養護教諭		
二 伏原 道夫	昭27 3 16		吉 木 竹 子	昭24 6 1	
三 田辺 和子	昭29 9 1		書記補		
四 佐藤 忠彦	昭29 4 1		荻 畝 江	昭30 2 16	
五 一瀬 重雄	昭24 3 31		校務員		
四ノ一 千頭 忠広	昭25 1 5		松田 徳次郎	昭30 2 16	
二 菊川 富美世	昭20 3 11		中 村 貢 郎	昭28 10 16	
三 吉田 正明	昭28 10 16		豊 満 登	昭29 9 12	
四 坂井 輝	昭28 3 31		学 校 医 小 木 俊 一	昭29 9 12	
五ノ一 上田 哲也	昭28 11 16		歯 科 医 安 達 八 千 代	昭29 9 12	
			眼 科 医 安 達 八 千 代	昭29 9 12	

記念事業詳報

八十周年記念事業委員会組織（芳名はいろは順（ ）は職員）

顧問 浅野藤太郎 加島正治 土方春吉

委員 和爾俊二郎 三浦源太郎 吉田保正

委員長 中北 悟 （北田 信治）

総務 中井綱吉 清水道長 （河本 一夫）

企画 清水道子 中村千代恵

会 計 中井綱吉 木花又雄

木花又雄 中村千代恵 （河本 一夫）

浅利富代 田川ふみえ （中田 請二）

記念式委員 酒井京一 森本英夫

式典委員 栄川君枝 田中初枝 太田清子

衣田きみ子 （二ノ瀬 重雄） 垣根勝子

記念誌委員 河本正男 松田美代子 真鍋春子

（名倉 健茲）

同窓会委員 西岡種次郎 田中松江 岡本依子

中村 豊 （千頭 忠弘）

施設委員 広見喜代志 勝目ます子 大川光子

図書館委員 （入江 幸次郎）

その他施設委員 （西 垣 綱 夫）太田富貴子 東 千代子

八十周年記念事業の概略

創立八十周年を迎え記念事業として次のような事業を計画している。本事業は昭和三十年度を以て完成されるものであつて、四月四日の記念式典当日にはそれら事業が一部完成され、また既に完成しつつある事業もあるが取り敢えず事業計画の大略を掲げることとする。

一、八十周年記念祝歌

祝歌の選定に当つては広く校下に公募し、応募作品を選定の結果歌詞は名倉健茲氏作、作曲は七条美智子作を決定した。祝歌は本誌の末尾に掲げることとする。

一、図書館施設

講堂裏の二階建会館を児童図書館に改築した。屋根の改修、児童の昇降階段の新設、内部の改修及び照明施設、書架、閲覧机及び椅子の完備等新装された図書館は左の写真のように名実共に本校下の文化センターとして完備されつつある。蔵書は今の処千冊内外で未だ貧弱ではある今年度中には相当に完備されるものと思われる。

二、記念植樹

昭和二十八年夏に完成されたプール側と校庭に植樹することとなつてゐる。植樹は緑化週間中に行うこととしてゐる。

四、記念誌及び記念特集新聞の発行

四月四日の記念式典当日に発行した。

五、記念式典

昭和三十年四月四日午前十時より本校購置に於てつぎに掲げるような次第で挙行する。

創立八十周年記念式次第

- 一、開式の辞
- 一、「君が代」斉唱
- 一、校長式辞
- 一、記念事業委員長挨拶
- 一、来賓祝辞
- 一、児童代表祝辞
- 一、感謝状贈呈
- 一、「八十周年記念祝歌」斉唱
- 一、閉式の辞

来賓祝辞

1. 市長祝辞
2. 市会議長祝辞
3. 教育委員祝辞
4. 区長祝辞
5. 大正区選出府市会議員代表
6. 同窓会代表
7. 校下各種団体代表



追憶



大阪市助役 和爾俊二郎
大正四年本校卒業

『櫛の並木道』 本紙に寄稿の材料を求めて古いつづらをひっくりかえしている、当時の修業証書や卒業証書が出て来た。それによると、私はこの学校を大正四年の春に卒業した。今から四十年前のことになる。創立八十周年を迎えるというから、丁度その真中にいたわけである。

明治四十二年に入學したときは木津川尋常高等小学校と言ひ、途中で泉尾第一尋常高等小学校と校名を変更した。泉尾東小学校となつたのは、その後だいぶ過ぎてからのことであらう。

当時の学校は本造二階建てで、敷地は石垣を築いて地盛りがしてあり、周囲には溝があつたように覚えてゐる。野原の中に、ぼつんと一校あつた。

正門前の道路には櫛（はぜ）の並木があつた。秋には紅葉して道の両側の水田に照り映えた。尻無川の櫛紅葉は元祿時代から有名で、この並木もそれと一連のものであつた。夕陽が水面を照すときには、たんぼの切株が池に浮ぶ子鴨のように見えて、形容のできない美しさがあつた。

今は地名だけに残つてゐるが、木津川の堤には千本松があつて、青々たる緑の一線をなしてゐたことも、きのうのように目に浮ぶ。今の鶴町は汐干狩に興じたところである。

これらの美しい田園風景も、第一次欧州大戦の重工業景気、あるいは造船所、製鉄所、セメント工場が建ち、あるいは堀が出来て貯木場となつたりして、自然の姿は全く一変した。今のこの学校とその周辺を見ては、こんな話は昔話としても、にわかに信じられない気がするのであらう。

『赤い螺の塩ゆで』 当時の校長は宮田先生で、度の強い近眼鏡をかけ、カイゼルひげをはやし、詰襟服に身を固めた誠に講直そのものといった典型的な校長先生であつた。今でも思い出しては尊敬している。

一年生で習つただけであるが、横山先生の印象は非常に深い。学校教育の第一歩に教えを受けた恩師だということもあるが、他の先生方とは丸で違つた性格を持つておられたからでもある。この先生の教室の訓育は、今思い出しても慕然と襟を正さねばならぬくらいに峻厳そのものであつた。しかし一

しても慕然と襟を正さねばならぬくらいに峻厳そのものであった。しかし一

面、慈父のような優しさがあつた。休日にはよく我々を家に集め、おとき話をして聞かせ、飽けば釣竿を肩に我々を伴つて木津川尻から防波堤方面へと釣に出かけられた。我々はその側で赤螺（あかにし）取りにふざけまわつて先生の釣の邪魔をしたが、先生は終始にこにこ。帰りは再び先生のお宅に立寄り、その赤螺の塩ゆでを針の先でつきながらみんなで食べたりした。また、当時なかなかの腕白小僧であつた私は、ある時、崖から落ちて左腕の尺骨を折つたことがある。先生は私を背に負つて病院に連れて行き、夜になるまで介抱し、私の家まで再びおんぶして送り届けて下さつた。永久に忘れ得ない思い出であり、先生である。

二年生の時には、上野の音楽学校の正服のままの榎田先生が担任であつた。優しい先生で、音楽にかけては、当時場末に近い我々の小学校にはもつたないくらいい先生であつた。

『もぎとつた級長の記章』三年生と四年生の二カ年間は上田先生、壺井先生、阿部先生というふうになつて教えていただき、いずれも特徴のある若いよい先生ばかりであつた。阿部先生は女の先生だつたが、男の先生よりも畏敬していた。

この先生の時、私は級長を勤めていたが、そんなことにはお構いなしに、私が先頭に立つて教室でふざけまわつたり、いたずらをやつたのでひどく叱られた。負けん気の強い私は、先生に抗弁し、目の前で級長の赤房を胸からもぎとつた。つまり辞表をたたきつけたというわけである。その代償として先生は私の頭に一笞をくれた。その時のコブの大きさは、今でもはつきりと寸法が判る。

その後先生は私の痼癖をなおすために、大変努力させられ、いくら學問ができてそんな短気では大成しない、と泣いて教えられた。私が友人知己から大してヒンシユクを買うこともなく、一人前の人間となり得た素地は、この先生のおかげだと思つてゐる。惜しいかな、この美しい女丈夫の先生は、若くして他界された。

五年生と六年生の兩年は、松本貢先生に訓意を受けた。温厚篤実の先生でただただ我々を一人でも多く上級学校に入れて、その望みを達成さすことに専念された方である。今なお御健在で、私も時々お訪ねする。

この先生の導きよろしきを得て私は卒業と同時に市岡中学に入学ができ、その後、第四高等学校を経て東京帝国大学に学び、今日に至つたのである。

思い起すことは、六年生の終り近く、一般の授業が終つた後、中学進学者希望者を一室に集め、暗くなるまで毎日一心不乱に特別課外授業をやつて下さつたこと。学校が受験勉強にしても問題にならなかつた。これも四十年前の話である。

八十周年記念祝歌

一、八十年の年月に

みんなを育てた学舎は
今日もよい子に

よびかける

元気で明るく堂々と
進んでゆこうと

呼びかける

みんなの心のふるさと

泉尾東小学校

二、八十年の年月に

大きくのびた学舎は
負けずにのびよと

教えてる

楽しいあすへの夢をもち
たゆまずはげめと

教えてる

みんなの心のふるさと

泉尾東小学校

♩=92

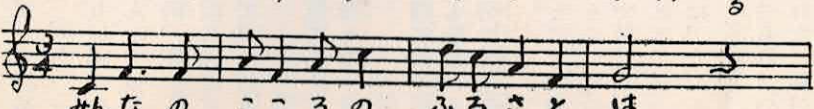
mf



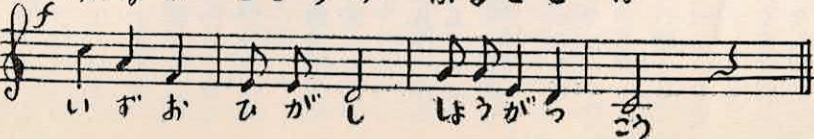
mp



mf



f



昭和三十年四月一日印刷
昭和三十年四月四日發行
〔非 売 品〕

大阪市立泉尾東小学校

八十周年記念誌委員

